一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信　やまがた　No.7

認知症新時代を迎えて
～「ぼけ」ても安心して暮らせる社会を～

公益社団法人　認知症の人と家族の会
山形県支部世話人代表　**山名　康子**

先日、ある地域の「つどい」に「ケアマネジャーさんの誘いで参加しました。」と担当の方と共に介護者の方が参加されました。

あまり多くは語らずに参加者の話に耳を傾けていましたが、帰りがけ「参加して良かった。機会をみて主人を連れてきたい。」と話して帰られました。

その介護支援専門員さんの姿から、目に見えないものに気づく感性や、より良いサービスをめざす「志」それに、人の多様性を理解して限界を認める謙虚さ等が感じられて、その方の高い専門性を感じました。

まだまだ「認知症」ケアについては多くの解らないことはあるものの、関係機関や他職種連携（協働）として個々人への支援がなされています。

しかし、さまざまな制度やシステムが構築されている中でさえも、「声」を出さず、または出せずにいる方が多くいます。

昨年２月京都で認知症の人本人や各関係機関団体による「つどい」が開かれ、その全記録から※「認知症を生きる人たちから見た地域包括ケア」として「2012京都文書」が出されました。その中に「出会いのポイントを前に倒す」「入口問題」として意見が出されていました。私たちの毎月の「つどい」でも同じことが言えます。

「介護心中事件」「介護殺人」が今なお起きていることは、「ひとりでないこと」を知る機会にめぐり合わない事も原因の一つと考えます。

昨年秋、家族の会の研究集会で、厚労省の勝又浜子認知症対策室長は「ケアの流れを変える」として予防・事前的対応を重視、「認知症の人」への取り組みの方向性を話され、今後その取り組みが実際に各市町村で実現していくように見守り、働きかけをしてほしいと話されました。

昨年９月５日には「認知症施策５カ年計画（オレンジプラン）」の公表も出されました。

私たちの会の理念にもあるように「ともにはげまし合い、助け合って、人として実りある人生を送る」として認知症になっても安穏に暮らせる社会の実現に向けて活動しています。新しい風の流れが、暖かい風となるよう見守り、今後もささやかな活動ではありますが、誰でも自由に参加の「つどい」や電話相談等をすすめてまいります。

介護支援専門員の方々のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

※ご参考まで（「認知症を生きる人たちから見た地域包括ケア」認知症の人と家族の会ホームページに全文掲載）

第３回研修会「災害対応研修ー机上訓練をとおしてー」

上記研修会が２月９日㈯、日本介護支援専門員協会災害対策特別委員の笠松信幸氏を講師に招いて開催されました。とても内容の濃い研修会であり、１回で終わってしまうのではなく、地区支部や、他職種との連携のもとあらためて開催して欲しいとの要望が多い研修会でした。

参加された皆様、お疲れ様でした。

認知症新時代を迎えて
～「ぼけ」ても安心して暮らせる社会を～
公益社団法人　認知症の人と家族の会　山形県支部世話人代表　山名　康子 氏 …1
関連機関との連携についてのアンケートの報告 …2
理事会報告 …4
地区支部報告 …4
相談窓口（ケアマネ110番）より …6
委員会報告 …7
書籍紹介 …7
会の動き …8
コーヒータイム …8
編集後記 …8

関係機関との連携についてのアンケートの報告　第一報

調査・研究委員会

平成24年11月に43名のケアマネジャーさんに協力を得てアンケートを実施致しました。お忙しい中アンケートに答えて頂きありがとうございました。第一報は、委員会メンバーの感想をまず報告致します。

ベテランさんが多かったので、重みのある経験や意見が多かったですね。包括の方にもお願いしたから、社会福祉士さんも多かったですね。

委員Ａ

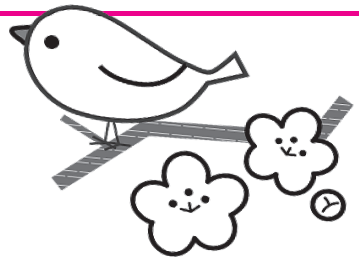
エピソードや連携に関しての意見は、とても勉強になりました。介護福祉士の資格保有者が増えてきているため、福祉系の連携よりも、医療系の連携に課題が残るのでしょうか。何か良い打開策を皆さま方と一緒に見つけられたら…と、個人的に思っています。　委員Ｃ

最近「顔の見える関係づくり」をテーマとした研修会が多く開催されている印象ですが、医療と福祉の連携についてはまだまだ課題があることを感じました。

お忙しい中、丁寧にアンケートにお答えいただいてありがとうございました。　委員Ｄ

相変わらず医療との連携のことが課題として大きいのかな。それに対して、介護保険サービスとの連携はうまくいっているような印象です。

医師との直接的な連携方法の模索に加えて、そこを介在してくれる職種への意見が増えている感じがしました。それと、地域ケア会議が今後どれだけ機能的になるか、でしょうか。　委員Ｂ



利用者様を通して、まずは顔の見える関係づくりを。お互いを理解する。というベテランさんならではの歴史を感じられる意見が多いように感じました。

あらためて自分の日々の連携を見直すことができました。　委員Ｅ

★この意見なんかケアマネの極意みたいですね。

①　こうすると連携がうまくできたという経験

気軽に連絡・相談しあう関係を作ることが大事だと感じる。その為には、先ずはケアマネジャー自身が関係者に連絡・相談を行うことが必要であると感じる。また、何か状態・状況の変化や気付き、悩みなどがあれば気軽に連絡・相談して欲しい旨を折々に話すよう心がけており、連絡・相談の内容で対応を差別せず、真摯に応じるよう気をつけている。

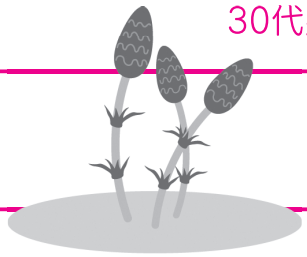
（連絡・相談者は、必要性を感じて連絡・相談を行っており、ケアマネジャー自身の対応・態度一つで、今後の連絡・相談が滞ることがありえるため）

②　こういう連携はうまくいかなかったという経験

上記の内容の逆を行った時は、往々にして連携が上手くいかない。
今まで連携を図ってこなかった人、苦手意識を感じる人等は、気軽に連絡・相談しあう関係を築き上げるまで、時間や労力が必要であるが、それを怠った時に、往々にして連携の不十分が原因の問題が起きる事が多い。

また、連絡・相談者への対応が真摯でなかったり、不適切・不満足な対応であった際は、その後の連絡・相談が滞る原因になり、結果、ケアマネジメントの質の低下につながると感じる。

30代男性



★この方もすごいですよね。

①　こうすると連携がうまくできたという経験

長い間ケアマネジャーとして業務を行い、高齢者を支援させてもらえたお陰で、一人の高齢者を中心に知らず知らずにネットワークができ、広がるということと、人を支えるのは人という信念で日々努力してきた感がある。

②　こういう連携はうまくいかなかったという経験

連携とは、お互いに信頼感や感謝の心があれば、連携する相手がどんな職種であろうともたやすいものと感じている。

60代の方

この続きは、次回会誌で。

第９回　理事会報告

と　き　平成25年２月23日(日)　15時～
ところ　山形市総合福祉センター
出席者　折居、島崎、佐藤(裕)、星川、山崎、丹野、佐藤(知)、菅原、伊藤(喜)、大沼、伊藤(欣)、伊藤(義)、藤橋、皆川、荒木、佐藤(祐)、小野、高木、星、村山、吉田、佐藤(貴)、峯田、柴田

１．各委員会活動について

⑴研修：２／９研修会報告。繰り返し開催の要望多い。
⑵サポート：110番111件。昨年件数を上回る。グレーゾーンに関わる相談が増加。23・24日元気サポートフェアに相談ブースを設置。Ｑ＆Ａ第２巻：作業中。
⑶広報：会誌７号編集作業中。
⑷調査・研究：アンケート報告。会誌等で報告予定。
⑸総務：役員改選について（４項参照）。
⑹研修受託事業：更新研修アンケート：９割が「理解できた」の回答。日本協会主催12月13・14日更新研修指導者養成研修に村山理事他２名参加。ガイドラインを元に、平準化を図ることが目的。

２．各地区支部活動

最上：研修会開催（地区支部報告参照）。
庄内：１／12庄内ケアマネ大会開催11演題、98名参加（非会員が８割）。活発な情報交換あり。来年度の体制作りに苦労している。
村山：第３回研修会開催報告（地区支部報告参照）。地区支部役員の改選について。
置賜：第２回研修会（地区支部報告参照）来年度研修会をどうするかが課題。非会員が多い。会員としてメリットがあるものを考えたい。役員改選について。

３．新規入会申込について：平成25年度入会申込３名について承認。

４．理事改選について

団体・地区支部推薦理事候補者について報告があり総会へ提案することが承認される。総会を５／26開催とする。改選に向けた手続きを進める。

５．次年度事業（案）について

・各委員会、地区支部より説明。
・25年度「山形県在宅医療推進モデル事業」について：「医療対応が必要な方への災害時対応の机上訓練」をテーマにしていく

６．その他

・次年度日本協会会議予定報告。
・代議員改選。２名を確保できる見込み。

次回４月27日(土)　16時から

地区支部報告（最上・置賜・村山）

最上地区支部

○平成25年２月７日(木)　18：00～19：30
会　場：県立新庄病院
「平成24年度第２回県立新庄病院退院支援担当者とケアマネジャー等との意見交換会」
参加者：県立新庄病院退院支援担当者　27人
地域包括支援センター職員　11人
最上総合支庁　２人
山形県介護支援専門員協会最上支部役員　４人が出席
講演：18：00～18：40　新庄市包括支援センター（黒坂氏）「介護保険制度」
情報交換会：グループに分かれて日頃の情報交換会
要介護認定申請について
入院診療計画書について

○平成25年２月20日(水)　18：30～20：00
会場：最上総合支庁講堂
「平成24年度第２回もがみ高齢者地域見守り関係機関連絡協議会」（支部長出席）
内容：「医療・介護等多職種の連携について(講演)」山形県健康福祉部　長寿社会課　課長補佐（地域包括ケア推進担当）福田香氏より

○３月　役員会予定

置賜地区支部

平成24年12月８日㈯　13：30より、置賜地区支部平成24年度第２回研修会を開催しました。今回も、ケアプランセンターソラーナ在宅事業部長で介護支援専門員(山形県介護支援専門員養成研修講師)の成澤正則氏を講師に「介護支援専門員業務の流れと重要ポイント」というテーマで、居宅介護支援の依頼、課題分析の実施、ケアプランの原案作成、担当者会議の開催等、ケアプランの原案作成、担当者会議の開催等、ケアプランの原案修正、ケアプラン原案の説明と同意やケアプランの交付について、細かく教えていただきました。

当日は、年末の忙しい時期で朝から雪の降っている天候であったにもかかわらず、107名（会員61名、非会員46名）の参加がありました。

（置賜地区支部　皆川　善典）

村山地区支部

第２回研修会　11月７日㈬

村山市社会福祉協議会会議室にて開催
講演：「歯科の関わる介護保険」
講師：江場歯科医院　院長　星川知佳子 先生

介護保険における歯科として、

・居宅療養管理指導　　450単位／月（２回）
・歯科衛生士居宅療養管理指導
　350単位・300単位／月（４回）
・口腔機能維持管理体制加算　　30単位／月
・口腔機能維持管理加算　　110単位／月
・その他

＊介護予防としての口腔機能向上事業
＊介護保険サービスとしての口腔機能向上事業

今回は、特別養護老人ホームでの口腔機能維持管理体制加算についての取り組みを紹介。

この加算は、介護保険施設において、介護職員が入所者に対し計画的な口腔ケアを行うことができるよう、歯科医師又は、歯科医師の指示をうけた歯科衛生士が、当該施設の介護職員に対して、入所者の口腔ケアに係る技術的助言及び指導等行う場合に算定が可能になるものである。

口腔ケアの委員会のたちあげ、歯科医師、看護師とケース担当とのアセスメント、口腔ケアの仕方、ブラッシング、義歯の洗い方等の学びと実践。
おいしい食事♪楽しい会話♪素敵な笑顔♪ＱＯＬの向上には、健康な口づくりが不可欠という内容でした。

第３回研修会　12月19日㈬

寒河江市西村山郡医師会館ホールにて開催
寒河江市西村山郡医師会研修会に参加
講演：「当院における嚥下治療の取り組み
　　～嚥下内視鏡検査導入で気づいたこと～」
講師：社会福祉法人 恩賜財団済生会 山形済生病院
　　内科診療副部長　中村由紀子 先生

超高齢化社会の到来とともに、高齢者肺炎が増加しています。その多くは、誤嚥性肺炎で絶食にして経鼻胃管、胃ろうにしてもなくならない現状。食べ物の誤嚥だけでなく、唾液の誤嚥が大きな要因で体力の低下によって肺炎を発症するそうです。誤嚥性肺炎で入院される方の多くは徐々にＡＤＬが低下し栄養状態が悪く抗菌薬投与で肺炎が治って退院しても再発を繰り返すことが少なくないとのこと。
そこで、肺炎を発症する前に誤嚥症状や低栄養に気づき、早期に対応することが肺炎の予防に有用と考え、嚥下内視鏡検査を導入。「一口でも安全に食べる」ことを目指しての取り組みの紹介。

どちらも、多職種連携のもとの実践。医療から、介護（生活）に繋ぐ醍醐味、まさに、これが介護保険制度の目指すところだと実感しました。

自立支援にむけた多職種連携のケアの実践をお聞きすることができ、たいへん実のある研修会となりました。

相談窓口（ケアマネ110番）より

このコーナーでは、山形県介護支援専門員協会相談窓口に寄せられたご相談と回答などをお伝えします。

住宅型有料老人ホームの福祉用具貸与について

質　問

住宅型有料老人ホーム（宅老所）通所介護を利用される方がいます。平成21年の集団指導の際には「有料老人ホームに該当しない施設への居宅サービスの提供についてで、福祉用具貸与、訪問系サービスの利用は認めない」とありますが、住宅型有料老人ホームに居住して、通所介護を利用する場合の福祉用具貸与はどうなのでしょうか。また、他の通所系サービスの利用はできないのでしょうか。介護支給限度額ぎりぎりまで設定しないと良い顔されず、利用者家族も病院から退院と言われるし、一人で置いておけず困っています。その時のケアプランは、住宅型有料老人ホームでして頂く事も含めたケアプランになるのでしょうか。受領書兼交付書の交付も必要でしょうか。

回　答

①住宅型有料老人ホーム居住した場合の福祉用具貸与について
②他の通所介護利用について
③住宅型有料ホーム利用時のケアプランについて

質問を３つに整理させていただきました。

有料老人ホームとは、老人福祉法第29条において、「老人を入居させ、入浴・排せつ・食事の介護、食事の提供、洗濯・掃除等の家事、健康管理等の日常生活上必要な便宜の供与（他に委託して供与する場合及び将来において供与することを約する場合を含む。）をする事業を行う施設であって、老人福祉施設、認知症対応型老人共同生活援助事業を行う施設でないもの」と規定されています。「住宅型有料老人ホーム」は有料老人ホームの３つのタイプのうちの一つで、介護が必要になった場合に、入居者の選択により介護サービス事業者と別途契約し、サービスを利用することができます。

このことから、①②についての利用は問題ありません。併設されている通所介護のみならず、利用者及び利用者家族と十分に相談の上、最も適切と考えられる事業所を選択されてはいかがでしょうか。また、限度額についてもケアマネが単独で決定するのではなく、利用者及び利用者家族へ説明し、決定していただく必要があります。

最後に③のケアプランについてですが、総合的な援助方針として住居型有料老人ホームを利用することを記載し、サービス内容・サービス種別を記載し、住居型有料老人ホームにおいて提供されているサービス、利用者家族が行っているサービスについても記載する必要があります。受領書兼交付書の交付も必要です。

委員会報告

サポート委員会

毎年『やまがた健康・元気サポートフェア2013』にて相談ブースを担当し、理事やサポート委員が「介護保険」の相談を受けています。今年は猛吹雪でしたが、お客さんもたくさん入り、介護保険の相談のほか、就職相談など多岐にわたる相談に対応しました。ケアマネ協会の活動PRに貢献できたかと自負しております。ケアマネ110番にも、ご相談下さい。

（サポート委員長　荒木昭雄）

広報委員会

今年度は「ケアマネ通信」の発行を年４回に増やしました。その分１回のページ数は減少したのですが。無事４回目の発刊もできほっとしているところですが、内容としてはいかがでしたでしょうか？

ご意見・ご感想などありましたらいつでもお寄せください。

会員増のため、協会外への広報活動も充実させていければと思うところです。

（広報委員長　佐藤知生）

財務委員会報告

平成24年度も残すところあとわずかとなりました。当会の運営は、会員の皆様の会費で成り立っています。日頃の皆様のご理解とご協力のおかげで会務の運営が順調に推移しておりますことを感謝申し上げます。会費の自動振替・自動払込が未完である方、領収書が必要な方、または自動引き落とし手続きについて不明な点は、事務局までご連絡ください。

（財務委員長　岡嵜千賀子）

書籍紹介

「看取りの医者」

著　者：医師・医学博士　平野国美

この作品は2011年テレビドラマ化された作品で、著者の平野先生が、在宅訪問診療医を目指したきっかけとなる実話です。最後には「自宅で死のうよ」という先生の本音がまとめて構成されています。在宅医療に関する本はたくさん出ていますが、医師が一人の人間としての目線で、個々の家族に寄り添い「あたたかい死」を体験している様子がよく再現されていると思います。特に高齢者アパートの熱心な介護者の、好きだからこそ故の仕事+ボランティア精神には、介護に携わる人たち皆共感できる点であり、また勇気がわいてくる作品です。

～会の動き～

◎**平成24年12月26日㈬**　山形県認知症施策推進会議（丹野理事出席）

◎**平成25年１月17日㈭**　山形県高齢者保健福祉推進委員会（島崎みつ子副会長出席）

◎**平成25年１月18日㈮**　山形県高齢者虐待防止県民会議（島崎みつ子副会長出席）

◎**平成25年３月１日㈮**　山形県難病等連絡協議会（加藤咲理事出席）

コーヒータイム

毎年この時期になると、挨拶代わりに雪の事が話題としてよくあげられます。
「今日は積もった」「やっと融けてきたね」などと職場でも朝はこの話から始まります。

毎日のように自宅でも職場でも雪かきをしているのになぜ痩せないのかと思いながら日々雪かきに勤しんでいますが、今シーズンは特に雪が多いと連日の報道等でも耳にします。青森県酸ヶ湯では５ｍを越し過去最深を記録したということや、県内でも大石田町では３ｍ近く積もったという話もまだ記憶に新しい所です。それに伴い雪下ろしや除雪中の事故も増え、多くの高齢者も犠牲になっているという痛ましい話も聞くようになりました。

３月となり、もう少しの間だとは思いますが、事故には十分注意して雪と付き合って頂きたいと思います。

先日職場の中で、毎年こんなに雪が降り積もるのだから、何かに使うことができないのだろうかという話になりました。水や風は発電できるのに、雪も何か役に立つ方法があるのではないかと。そうなれば経済も潤うし、エコにもつながるのではないかと、ちょっとうれしくなり、しばらく考えてみたものの、これというアイデアも出ず、話は終わってしまいました。せっかく東北に豊富にあるのに雪「害」という悪い言葉が一番先に出てしまうのは、素人考えですがもったいない気がしてなりません。そこで調べてみると、やはり日本雪氷学会、社団法人雪センターをはじめ、色々な大学などでも研究室があり、雪に関して様々な研究がなされていました。県内でも尾花沢市では雪を貯蔵し、夏に市役所の冷房に使用するという素晴らしい取り組みが行われていました。今後こういうアイデアがもっと広がり、身近に取り入れられるようになれば、雪は迷惑な物というだけでなくさらに重宝がられるようになると思います。そんな未来を期待して、まだ庭に残っている雪で子どもと今年最後の雪だるまを作りました。

編集後記

あの３．11から２年が過ぎました。復興はまだまだです。何が出来るのか。あの時のボランティアの体験を語って行くことも出来る事の一つではないのか。　　（ここ）

一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌
ケアマネ通信　やまがた　No. 7

発行日／平成25年３月15日
発行人／折居　和夫
発行所／山形県介護支援専門員協会
〒990-0021　山形市小白川町２-３-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-615-6530　FAX 023-615-6521
E-mail：yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本／株式会社　誠文堂印刷
〒990-0043　山形市本町１-７-50
TEL 023-632-2910　FAX 023-632-2912